

町 木
第89号
肥田町
まちおこし
推進協議会

まちおこし推進協議会 定期総会開催される

令和元年、新しい時代のスタートとして、去る四月十四日、肥田町まちおこし推進協議会定期総会が開催されました。前年度の事業報告や決算報告がなされ、とともに、新年度の事業計画（自治会や各種団体の統合事業計画（共同活動計画））や予算が審議されました。事業や予算執行について「補助事業の趣旨を生かし、事業内容を検証しながら適正な



役割分担から見た共同活動

総括、良好なコミュニティ社会の維持・・・自治会
防犯防災、交通安全・・・自治会
文教、福祉、体育活動の推進・・・自治会
広報発行・・・まちづくり委員会
農業用施設の点検、整備・・・農事改良組合
環境・・・諸団体協力
〔自治会、まちづくり委員会、福寿会、
子ども会、中学校PTA、ファーム肥田〕
農業経営・・・ファーム肥田ほか個別農家

予算執行に一層努めるよう求める「意見や「町の活力が失われつつある。予算の削減ばかりにとられず、必要な予算を確保することが必要」などの意見がありました。熱心な議論を経て、事業計画や予算は原案どおり賛成多数で可決されました。事業実施はこれからですが、みなさんの積極的な協力がなければ実践は困難となります。今後とも、誰もが住み良く、活気みなぎる肥田町」が継承されるようご協力をお願いします。

まちおこし推進協議会 補助事業について

総会で意見のありました「まちおこし推進協議会」の事業について、補助制度の趣旨や内容をお知らせします。

この事業は、国の「農林水産業・地域の活力創造プラン」を踏まえ、農業農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、日本型直接支払（多面的機能支払等）の取組として、「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」をもとに実施されているものです。滋賀県では、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」という名称が使われています。

制度の内容等は次のとおりですが、将来を見据え、補助対象として取り組むべき提案や要望があれば、推進協議会会長（自治会長）などお近くの役員までお伝えいただければと思います。

一、事業の趣旨

農村には田んぼや畑があり、たくさんの生きものや美しい景観、伝統文化が育まれています。農家の減少や高齢化などにより、農村の恵みを維持することが難しくなりつつあります。このため、みんなが生き生きと暮らし、農家非農家、大人から子どもまでがチカラをあわせて行う、農地や水路などの維持保全の活動、田んぼや水路の生きもの調査、田んぼや水路、農道などの法面を利用した花を植える活動などを応援するものです。

二、補助の対象となる具体的活動

【農地維持支払交付金】

- 地域資源の基礎的な保全活動
農用地、水路、農道などについての点検、計画策定、実践活動

○ 地域資源の保全管理推進活動

- 農用地、水路、農道などの保全管理の目標を定め、目標に即した取組を実施しながら、将来にわたる保全管理構想を策定

【資源向上支払交付金（共同）】

○ 標準型

- 水路、農道等の施設の軽微な補修や農村環境を保全する活動、多面的機能の増進を図る活動が対象となります。（多面的機能の増進を図る活動とは）

- ・ 遊休農地の有効活用

- ・ 農地周りの共同活動の強化

- ・ 地域住民による直営施工

- ・ 防災、減災力の強化

- ・ 農村環境保全活動の幅広い展開

- ・ 医療、福祉との連携

- ・ 農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化

○ 環境保全型（標準型にプラス）

- 水質浄化池の機能維持活動

○ 防災減災型（標準型にプラス）

- 貯留機能等を高める「田んぼダム」の活動

○ 生態系保全型（標準型にプラス）

- 生物（魚類等）の生息環境や移動経路を確保するための整備

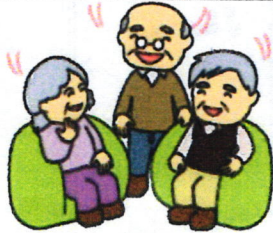
まちづくりに想う

まちづくり委員会顧問
藤野 泰弘

私たちの肥田の町は、恵まれた自然とそこに育まれた先達の方々の歴史があり、豊かな文化が刻まれた個性溢れる町です。今日、肥田の立ち位置をより明確にして、この肥田の良さを次の世代に繋いでいくのが私たちの使命だと思います。私自身、ここで生まれ育っていないことから、町民の方々のコミュニティが特に気がかりでしたが、社会人として永い営業人生で培った人間好きの心と、父親譲りの近江商人の「三方よし」の心を架け橋に努力して参りました。皆さんからもまた「まちづくり」への温かいご支援をいただいたこと、深く感謝しています。お陰様で「まちづくり」二十年を私の第二の人生として務めさせていただくことができました。

平成二十二年の「広報ひだ」で「まちづくり十五年を回顧して」と題し経過報告させていただきましたが、町の歴史文化、環境と開発、そして福祉活動、広報ひだを軸に、自治会とも一体となった幅広い活動を通して、町民の皆さんとも共感の絆を深めさせていただき嬉しく有難うございました。

今日、時の流れから、一段とグローバル化や情報の多様化が進む中で、世代間の生き方や価値観の多様化が広がり、政治や行政の在り方に大きく影響する時代となっています。人口の減少



令和の新時代の幕開けに相応しい、安心して笑顔の絶えない明るい町肥田へみんなで力を合わせていきましょう。「まちづくり」活動へのご理解・支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

や少子高齢化は国の生産力にも影響を及ぼし、外国人労働者に依存せざるを得ない時代となったようで、今後の多文化共生社会の広がりも気にかかるところとなっています。こうした状況の中、最近の選挙の投票率の低さをみますと、これで民意を汲むことができないのかと危惧さえ感じています。

これからの時勢のまちづくりの在り方を考えるとき、このような色々な変調の空気の中にあつては、より腰を据えて、常に年齢を超えた一体感のある強い町づくりが望まれます。当面の優先課題は、やはり、切実な福祉と災害への対応であり、日常での福祉の心、共助の心の体制が自然に醸成される町が求められています。例えば、向こう三軒両隣の健康と安全が崩れたとき、いかにその情報を日常的にいち早くキヤッチできるか、その対処の手順が迅速に進められるか、特に町での昼間の高齢者はかなりの時間帯の対処こそ課題だと思えます。肥田の町は幸いにも三つの町で構成されていることから、効率の良い助け合いのネットワークづくりも可能だと思えますし、今こそ急務かと感じているところです。

令和の新時代の幕開けに相応しい、安心して笑顔の絶えない明るい町肥田へみんなで力を合わせていきましょう。「まちづくり」活動へのご理解・支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

先進地（高齢者福祉）を訪ねて

民生児童委員 森野美佐子

民生委員の研修で米原市大野木地区を訪問させていただきました。

大野木地区は県内はもちろん県外からもたくさん視察に来られています。伊吹山の麓にあるのんびりとした地域で、穏やかに時が流れている感じの地区です。地区人口は一三五世帯四一七人で、肥田町より少し大きく、高齢化率は三十三％ということです。

この地区では、長年、高齢者が共に助け合うまちづくりを実践してこられました。二年前、一般社団法人「大野木長寿村まちづくり会」として再出発され、地区内に限定した高齢者支援、子育て支援を機軸に、地域の課題は地域で解決することを目指し活動されています。

具体的な活動は、たまり場の運営や子ども食堂、高齢者支援、子育て支援などですが、例えば、高齢者支援として行っている寄り添い送迎サービスでは、利用者が気兼ねなく利用できるような有償とされていきます。送迎は三〇分で三百円、買

い物はガソリン代のみ払う、送迎の原則は社協の車、自家用車は登録した車、登録した運転手に限るなどの決まりがあります。支払われる料金は九割が出役者へ、一割が会社へ配分されるなど、対等の立場で気を使うことなく利用できるよう、きめ細かく内容や方法を決めておられると感心しました。そして何より、その絆

は強く、信頼関係は素晴らしいものだと思ひました。

昔に比べて行政も高齢者に優しい取り組みになってはきましたが、さらにきめ細かく玄関から玄関へ見守りを支援する必要性を感じました。

これからは、独居高齢者、高齢者夫婦、昼間独居家庭がますます増えることから、ひきこもりを亡くして近所同士で見守り合う、空き家カフェと言われる「たまり場」に集まることで安心し元気が確認できる、比較的元気な高齢者が動きにくい高齢者に寄り添い見守ることの大切さを強調されておられました。

少子高齢化がとめどなく進む社会を過こしていかなくてはならない私たちに与りまして、非常に興味深い取り組みだと思ひました。

すでに稲枝地区でも積極的に取り組まれている地域もありますし、当町でもボランティアの皆さんが頑張つて下さっています。もう一歩掘り下げ、手を携えて住みやすい老後が送れるために、是非参考にしたいものです。そして、次の世代に繋いでいける取り組みができるよう願うものです。

ある専門家は全国的に少子高齢化が百年以上続くことを推測しておられますし、昔からある向こう三軒両隣の、助け合い、見守り、つながることが大切だと痛感しました。

民生委員をお預かりして早や三年目になりますが、十分な活動もできないまま任期を終えることを心苦しく思っています。お話として聞くだけでなく、実践に持つて行けるよう皆様と一緒に前に進めて行くことが課題かなと思っています。

小宮まつりの開催

五月十九日、今年も小宮祭りが催されました。数年前までは全町を挙げて太鼓を引き回すなどコミュニティの形成に大きな役割を果たしてきましたが、近年は若者や子どもの少なさから質素な祭りとなっています。

当日は、早朝から金刀比羅神社と住吉神社で祭礼が行われ、町内からそれぞれの神社に参詣がありました。その後、合祭となる山王権現社（火伏の神）で祭礼が行われ、自治会役員なども参加して、厄災など町内の安全祈願が行われました。

肥田町には、この三つの神社の他に、團場整備を機に自治会でお祀りすることとなった山王祠があります。

それぞれ異なる由緒があり、お祀りする主体も異なることから、コミュニティの一体化や地域の活力面ではマイナス面も感じられます。

これらの人口減少社会の中で、より良い地域社会を継承するため、多方面に検討する必要があるのではないのでしょうか。



金刀比羅神社のこれから

金刀比羅神社社守 藤野 眞理

肥田町の皆様、特に上公民社氏子の皆様には、平素から金刀比羅神社に際し格別のご理解とご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

金刀比羅神社につきましては、その由来について、「養和元年（一一八一年）肥田城主、高野瀬備前守が、宇曾川の航行安全と福德の守護神として、讃岐の金刀比羅宮より勧請して城中に祀ったのが始まりで、其の子、備中守はじめ代々の城主自ら祭儀を掌も、やがて兵火により肥田城は消失した。しかし、近世末期、度々水害ありしたため、肥田村の産土神として再興した。御祭神、大物主とは、万神の首と仰がれる神の意で、皇室をはじめ万民守護の靈験あらたかな、町内安全、稼業繁栄の神様である」とされています。

このような由来をもつ神様のご加護により、肥田町民の皆様が安心して暮らせることを願い、氏子の皆様には金刀比羅神社と氏神様である天雅彦神社の護持運営にご協力いただいていること、感謝申し上げます。近年のご時世では、肥田に限らず、神社保持には、関係各位はもとより信仰心熱い氏子の皆様には心苦しい日々だと思えます。

私の考え過ぎでしょうか、今の時代、遠くても有名な神社には多くの方が初詣に出かけられますが、日常を含め、地元の神社へお詣りいただく方は少なくなっているような気がしています。

また、簡素化を美徳する時代背景の中で、年間十二回と毎月のようにある金刀比羅神社の護持運営を何とか執り行っています。

昔からある若い衆組織の賜だと思っています。この機会に関係者の方々に深く感謝申し上げます。



他方、現実を直視しますと、護持運営面では、若い衆の人手不足から行事の執行に支障を来すようになっていきます。財政面でも、氏子の皆様に負担いただいている宮費の七割強を天雅彦神社に納めている現状や、金刀比羅神社の必要経費も増加傾向にあることから、役員の方々には大変苦勞いただいています。

こうした状況の中、未来を展望しますと、既に弊が見えてくる上公民社の存続（後継者不足）を始め神社運営全般について、一層深刻な状況に近づきつつあるのではないかと懸念しています。氏子の皆様には、この由緒ある金刀比羅神社の今後の護持運営をどのように行っていくのか、真剣にお考えいただきたい時期が迫っているものと思います。末永く金刀比羅神社が繁栄存続し、肥田町民の皆様がご多幸であられるため、一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。

住吉神社について

かつては賑わいのあった住吉神社、時は異なっても事情は同じかと思えます。肥田町史を紐解いてみました。

住吉神社の社伝では、「天徳二年（九七二年）四月、肥田高道高明親王の旨を奉じ奉遷せし古社なりと見ゆ」と愛智郡誌に記載があり、また、明治四十二年の内務省令により豊満神社に合祀されたと付記されているようです。

この記載からして、住吉神社は千年以上の歴史を持つ由緒深い神社ですが、明治の合祀が何であったのかは不明なようです。

一般的に、神社の合祀は、前近代から明治初期、末期と何回となく行われていますが、この明治末期の合祀は特に大規模で、大正初期までに全国二十万社の神社のうち七万社が廃社されたそうです。神社合祀政策は西園寺内閣から始まり、内務省神社局の主導で行われました。目的は、合祀により経費の集中を図り、一定の設備や財産を備えた威厳と継続的経営が確保できる神社にするためだったようです。合祀された神社の中には、戦後になって復祀した神社もあるようですが、住吉神社もその一つではないのでしょうか。これらの経緯、ご存知の方がおられればと思います。

末永くよろしく申し上げます

歓迎

三組 丹南悦子さん
ご一家が入居されました。

ふるさと歴史探訪記 5

高瀬 俊 英

永祿の戦いのあと

水攻めによる籠城と火攻めによる野戦
よって、宇曾川南の平野（まさに肥田の
在所）は惨憺たる光景だったようです。

その一例

長樂寺文書「法光山縁起」によると、
長樂寺は、天平の昔（七四〇年）、僧行基
が開いた毘尼寺で、昔は小字賽寺（びん
てら）にあつて、寺が荒れたのを惜しん
で、仏眼禪師が弘安三年（一二七八年）
に再興し、賽光寺として栄えていたとい
ろ、永祿の合戦で兵火のため焼けてしま
い、本尊仏も行方不明になったと書かれ
ています。



続いて、同縁起は、慶長六年（一六〇
一年）、登町の住人、信阿弥、幸阿弥父子
の夢枕に一人の僧があらわれ、「吾は毘尼
寺（＝賽寺）辺りに住まいせざる者なれど、
土中に埋もれて久しく、為に度生の願ひ
欠けり、汝、吾をして世に出でしめ、所
願を全うさせよ」と告げました。住人父
子が肥田の古老に話をすると、古老は賽
寺には大仏さまがおられたことを覚えて
いて、そこを掘ったところ、土中から尊
像を発見したので、一同喜んで仮堂に安
置き、供養したと伝えていきます。（戦火を
避けるために、住民の誰かが土中に埋め
て罹災を免れた例は湖北地方でも見られ
ています。）

江戸期になると、長樂寺は現在地に移
転し、鎌倉から来た松嶺和尚、享保一五
年（一七三〇年）要山禪師、明和七年（一
七七六年）宗建禪師らが長樂寺を復興さ
れ、本尊像（現薬師如来像）も修理され
たと言われています。

崇徳寺にも永祿の戦いを描いた屏風、
「肥田表合戦屏風」があります。制作者
は元豊会館長岡孝寛氏で、「群書類従」に
も詳しく、崇徳寺を始めとして肥田の各
所から火の手が上がっている様子が描か
れています。

崇徳寺も昔は小字山王、丹波屋敷付近
にあり、発掘調査の結果、土中から焼土
や焼瓦が発掘されていますし、江戸期に
なつて井伊家の援助で現在の位置に移転
したとの記録もあります。

崇徳寺にある城主の石碑、一緒にある
石地蔵の中には、一石に二体、三体ある
地蔵彫刻が幾つもみられますが、これら
は何を物語っているのでしょうか。



野良田表の合戦で犠牲者が大量に出た
ことは前掲しました。肥田の上田（かみ
た）に小字北墓立、南墓立があり、その
遺跡地ではないかと注目されましたが、
出土品はありませんでした。（北墓立の地
底からは、さらに古い時代、奈良時代以
後の貴重な文化財の発掘をみました。）

編集後記

（森田喜久雄）

新天皇が即位され、令和元年の幕が開
けました。今回の元号改正、国民の多く
の祝意があつたようです。安全安心、希
望に満ちた時代を期待したいものです。
東大の入学式での祝辞、共感しまし
た。社会の隅々に蔓延するジェンダー差
別などを指摘し、「頑張っても報われない
社会。皆さんの頑張りを恵まれない
人々のために使ってください」というも
の。読んでみられてはどうでしょう。

残念な事件、事故が続いています。小
学生を刃物で襲う異常な事件、息子の異
常な行動を心配する父親の特異な事件、
何か社会の問題を感じさせられます。
歩道で待つ乳幼児に突っ込む自動車
事故、猛スピードで道路を逆走する多重
自動車事故、悲しい事故が後を絶ちませ
ん。どうすれば防げるのでしょうか。

まちおこし推進協議会の補助金。農
業あつて農村なし、農村あつて農家な
し、農家あつて住む人なし」と囁かれる
農業農村事情です。お金が全てではあり
ませんが、少しでも地域の活力向上に役
立って欲しいものです。

町の課題、ますます顕著となる傾向が
あるようです。十年先、二十年先を見つ
めると、今から手を打っておくべきこと
も多く、議論から実践へと高めていくこ
とが大切になっています。みんなであら
ましよう。